

EU／欧州と共に紡ぐ 私たちの環境

～「未来」のために今できること・すべきこと～



第1回 7月7日 (火)

「古代ローマ帝国の統治術、なぜヨーロッパを統一的に支配できたのか？」 堀 賀貴 (九州大学大学院人間環境学研究院 教授)

1994年京都大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程単位習得の上退学。博士(工学)。M.Phil(マンチェスター大学)。2012～13年セント大学ヨーロッパ文化・言語学部客員教授。専門は西洋建築・都市史。著書に『古代ローマ人の危機管理』(九州大学出版会、2021)、『古代ローマ人の都市管理』(九州大学出版会、2021)など。2019年日本建築学会賞(論文)。

複雑に民族、文化が入り組んだヨーロッパ(といわれる文化圏)を、歴史上、最も長期間にわたって1つの国家として統治した古代ローマ帝国、その秘密は社会構造とともに「インフラ」を通じた統治術にありました。「すべての道はローマに通ず」あるいは「ローマは一日にしてならず」といわしめた帝都ローマを代表する建築と建設技術について、写真や図版、さらに模型を使って、わかりやすく解説します。

第2回 7月21日 (火)

「日本のエネルギー転換：EUとの比較と展望」

アンドリュー・チャップマン (九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (ICNER) 准教授)

九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(ICNER)主任研究者、同大学大学院経済学府エネルギー経済講座准教授。エネルギーシステム、エネルギー経済、脱炭素政策を専門とし、技術・社会・制度をつなぐ視点から、日本のエネルギー転換、水素、電化、産業脱炭素などを研究している。

本講義では、日本のエネルギー転換を、EUとの比較を通じてわかりやすく考えます。カーボンニュートラルを実現するためには、再生可能エネルギーを増やすだけでなく、産業、交通、家庭で使うエネルギーのあり方を大きく変える必要があります。日本とEUが共有する課題を整理しながら、日本で特に重要となる「電化」と「水素」の関係、エネルギー安全保障、産業競争力、暮らしへの影響について考えます。

第3回 7月28日 (火)

「欧州からガザ地区への初のエラスムス留学生(医学)から見つめる留学の価値」 関根 健次 (ユナイテッドピープル株式会社 代表取締役)

ベロイト大学経済学部卒。大学卒業旅行中に偶然訪れたガザ地区で紛争の現実に触れ、平和の実現を人生のミッションと定める。2002年、「人と人をつなぎ、世界の課題解決に貢献する」を理念に、戦争、貧困、飢餓、気候変動などのグローバルな課題に取り組むユナイテッドピープル株式会社を設立。

2023年10月7日以後の戦争によりガザ地区は壊滅的な状態となりました。この戦争以前に、欧州初のエラスムス留学生としてガザ地区に留学したイタリア人の医学生であるリッカルド・コッラディーニ氏の経験を踏まえ、留学の価値を考察。また、留学後医師となった彼の最近の活動やガザのような紛争地のために私たちが出来ることを考えます。

第4回 8月4日 (火)

「欧州を揺るがす『気候裁判』：なぜ市民は国や企業を訴えるのか？」 渡邊 智明 (福岡工業大学社会環境学部 教授)

福岡工業大学社会環境学部教授。九州大学大学院法学府博士後期課程単位取得退学、博士(法学)。専門は、国際関係論、特に、地球環境政治。主な著書に『有害廃棄物に関するグローバル・ガバナンスの研究—政策アイデアから見たバーゼル条約とその制度的連関』(国際書院)など。

日本ではあまり知られていませんが、今、世界では市民が企業や政府を相手取って、気候変動対策へのさらなる対応を求める訴訟を相次いで起こしています。とりわけ欧州では、市民の積極的な動きがあり、画期的な判決も幾つか出されています。今回の講演では、このような欧州における気候訴訟の動きを概観します。